



春野中だより

〈教育理念〉 自他共愛
〈学校教育目標〉・明るく・豊かに・たくましく

平成 30 年度 第 2 号
平成 30 年 5 月 1 日 (火) 発行
さいたま市立春野中学校
〒337-0002 見沼区春野 2-2-1
TEL 682-3951 FAX 682-3952

集中学習・活発授業・定着学習

校長 坂田 真澄

新緑を吹く風の心地よい季節となりました。今年は、4月の暑さのためか、開花が例年になく早いようです。校内のハナミズキの白やツツジの赤が青空に映えています。学校の周りのポプラ、ケヤキ、サクラやムベ若葉がきらきらと輝きを競い合っているようです。

春野中生として、礼を正し、場を浄め、時を守り 校風を磨こう（生徒スローガン）

新学期が始まって3週間が経ちました。生徒たちは心機一転、学校生活を送っています。春野中の最上級生として、中堅学年として、新入生としての自覚が伝わってきます。

毎朝のあいさつの声がさらに、大きくなったように感じます。清掃に熱心に取り組み、環境委員の放課後の清掃が丁寧でいつも感心させられます。登校、授業・集会等の開始、下校時刻などが確実に守られています。昨年度、私は、前述の生徒スローガン「凡事徹底」を年間とおして訴えてきました。これは、正に教育学者森信三先生の言葉である現実界における再建の三大原則である「凡事徹底」（簡単なことを極めていく）ことにつながるものです。

私は本校の校風の一つに、この「凡事徹底」が位置付けられると思います。さらに、昨年度、3年生が残してくれた、「先輩が後輩に手本を示す」「最後まで粘り強く取り組む」など、素晴らしい姿勢を今後を引き継ぎ発展させて欲しいと願っています。

人はなぜ学ぶのでしょうか？

時間割が決まり、本格的に授業がスタートしました。生徒は真剣に授業に取り組んでいます。生徒の本分は学業です。しかし、難しい内容にぶつかったとき、家庭で宿題に

取り組むとき、テスト勉強をするとき、さらに、3年生が今後受験勉強に励むとき、思うような結果に恵まれないときはなおさら、ふと「なぜ勉強するのだろうか」と考えることでしょう。これについて、往年の名作「男はつらいよ」に以下のようなシーンがあります。甥の満男くんが寅さんに質問します。

満男 「大学へ行くのは何のためかな。」

寅 「決まっているでしょう。これは勉強するためです。」

満男 「じゃ、何のために勉強すんのかな。」

寅 「つまり、あれだよ。ほら、人間長い間生きてりゃいろんなことにぶつかるだろう、なあ？そんな時に俺みたいに勉強してない奴は、振ったさいころの出た目で決めるとか、その時の気分で決めしかしようがない。ところが勉強した奴は、自分の頭できちんと筋道をたてて、こういう時はどうしたらいいかなと考えることができるんだ。だから、みんな大学へ行くんじゃないか。だろ？」



真剣に話を聞く生徒 4/18 学校公開

つまり、寅さんは、何かの壁や障害にぶつかったとき、これを乗り越える力、「生き抜く力」を身に付けるために勉強すると言っているのです。そのために、私は、毎日の授業を大切にしたいと思っています。まず、先生の話をしっかり聞いてノートをとり、課題に真剣に取り組んで内容を理解し、知識や技能を身に付けます（集中学習）。これを基に、友達と意見を積極的に交流させ、考える力、表現する力を高めます（活発授業）。これを実行するのが学校だと考えます。そして、ここで身に付けた力を家庭等で行う学習でより確かなものにして欲しいのです（定着学習）。

私たち教職員も、一時間一時間の授業を大切に、教育活動に邁進いたします。